

文字文化の今、未来

本研究会では、第61回大会より「文字文化に関わる資質・能力を目指す書写書道教育」を一貫した大会主題として実践研究を展開してきました。令和6年度、現行学習指導要領における教育課程が完成年度を迎え、同12月には、次期改訂に向けて文部科学大臣から中央教育審議会に対して諮問がなされたところです。本シンポジウムでは、4人の研究者が個々の研究主題との関連を図りつつ、「文字文化」を切り口に書写書道教育の現在と未来を語ります。

日時 2025年11月27日(木) 14:00~15:30

会場 千葉大学西千葉キャンパス教育学部2号館 大講義室

●進行 加藤泰弘(東京学芸大学教授)

●登壇者

押木秀樹(上越教育大学教授)

【発言テーマ】「文字文化としてのパラ言語的要素と書字動作」

手書き文字には、その人らしさや気持ちが表れるといいますが、それらをパラ言語的要素として分析すると何が見えてくるのでしょうか。また書かれた文字だけではなく、書く動作も大切な文化ではないかといった提案もしたいと思います。

【略歴と主たる業績】

全国大学書写書道教育学会前理事長。文化審議会国語分科会専門委員などを歴任。主な業績に「書写教育の現状とあり方—手書きすることの学びはなぜ必要か—」(『日本語学』40(3)、2021)、「手書き文字におけるパラ言語的機能としての規範性と個性等について」(『書写書道教育研究』(30)、2016)、「書写の学習活動あるいは教員養成と書字に関する基礎研究—一点画の書き方から行書までの動作の学習を例として—」(『日本教育大学協会全国書道教育部門 研究紀要』(28)、2023)

松本仁志(広島大学教授)

【発言テーマ】「文化としての筆順の可能性」

筆順は、文字の手書きと文字文化、文字の学びの長い歴史を支えてきました。決して主役にはなれないものの豊かな筆順文化を形成してきたことも事実であり、そこに手書きの将来の可能性を見出すことができると考えます。

【略歴と主たる業績】

広島大学(博士(教育学))、全国大学書写書道教育学会理事長、広島大学人文社会科学研究所副研究科長、同教育学部副学部長。

【略歴と主たる業績】

『筆順のはなし』(中央公論新社、2012)、『書くことの学びを支える国語科書写の展開』(三省堂、2009)「楷書筆順の規範形成に関する歴史的研究」(学位論文、2015)

青山浩之(横浜国立大学教授)

【発言テーマ】「文字文化の豊かさに触れる書写指導」

文字文化には、文字の文化と文字を書く文化の両面があります。文字を書く文化を、社会化志向性と個性化志向性などの視点から捉えると指導の方法の課題が見えてきます。文字文化の豊かさに触れる書写教育のあり方を指導方法の面から考えてみます。

【略歴と主たる業績】

全国大学書写書道教育学会常任理事、全日本書写書道教育研究会統括副理事長、平成29年学習指導要領作成協力者などを歴任。全国大学書写書道教育学会学会賞(2008年9月)。「国語科書写の学習指導における個性化とその方策」(『書写書道教育研究』(18)、2004)、『書写力・語彙力・活用力の育成を位置づけた小学校書写指導のアイデア&授業モデル—生きて働く「書字力」を育てる—』(明治図書、2016)、『「きれいな字」の絶対ルール』(日経BP、2019)

加藤泰弘(東京学芸大学教授)

【発言テーマ】「高等学校芸術科書道の現在と未来」

芸術科書道の教育課程の編成と普及を長年にわたり担当した経験を踏まえ、これからの芸術教育の方向性について提言し、文字文化という視点から、書道教育の現状と課題、未来を考えていきます。

【略歴と主たる業績】

全国大学書写書道教育学会常任理事、日本教育大学協会全国書道教育部門代表、全日本書写書道教育研究会統括副理事長。2007~2018 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官。高等学校学習指導要領(平成30年7月告示)の芸術科書道の作成・編集を担当。「教育課程における書写・書道教育の改善・充実についての考察—文字文化についての学習の充実の視点から」(『東アジア書教育論叢』11、2026)

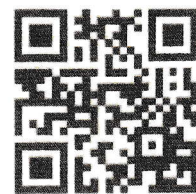
【お問い合わせ先】

本部事務局 江戸川区立第五葛西小学校校長 田中雅生

TEL: 03-3689-6216 / FAX: 03-3689-6371 (江戸川区立第五葛西小学校)

大会事務局 千葉市立千城小学校教頭 西野暁子

TEL: 043-266-3741/FAX: 043-268-5863 (千葉市立千城小学校)



本シンポジウムの参加には、大会への参加申し込みが必要です。詳細はホームページをご参照ください。
<http://zenshoken.org>